

プレスリリース
報道機関各位

第28回 AIDS文化フォーラム in 横浜 <ともに生きる つながりの参加者になる> 8月6日(金)から8日(日)オンライン開催

国内におけるエイズ患者と HIV 感染者数のうち、2019 年に新たに判明した HIV 感染者の報告数は 903 件、新規エイズ患者は 333 件で、合わせた新規報告数は 1,236 件となりました。2019 年度末の累積報告件数は、HIV 感染者 21,739 件、エイズ患者 9,646 件で、計 31,385 件となりました。年齢では、HIV 感染者新規報告は 20 歳代と 30 歳代が多く、AIDS 患者新規報告は 40 歳代が最も多く見られます。全国的にみても神奈川県の高割合は高く、HIV 感染者は、東京都、大阪府、愛知県に次いで 4 番目に、エイズ患者は、東京都、大阪府、愛知県、福岡県に次いで 5 番目に多くなっています。(添付資料参照)

こうした状況の中、市民の立場からエイズについて幅広い視点から考える「AIDS文化フォーラム in 横浜」(同組織委員会主催、神奈川県共催、横浜市健康福祉局、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、横浜商工会議所、神奈川県教育委員会、公益財団法人エイズ予防財団後援、横浜 YMCA 事務局)は、第 28 回目を迎え、8月6日(金)から8日(日)の3日間において、コロナウイルス禍にあるため、オンライン(Zoom ウェビナー)にて開催することになりました。

このフォーラムは、1994 年に横浜で第 10 回国際エイズ会議が開かれたのをきっかけに、「市民に開かれた会議を市民の手で」を基本コンセプトとして、横浜商工会議所、青年会議所、横浜 YWCA、横浜 YMCA などの民間団体による組織委員会が主催者となり、第 1 回フォーラムを神奈川県の高割合、横浜市などの後援により開催しました。以降、毎年 8 月に開催しています。

昨年(2020)の第 27 回のフォーラムには、高校生や大学生、学校教師、医療関係者など延べ 4,076 人が全国からオンラインで参加し「リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう」をテーマに、あなたにとっての大切なことを共に考えようと開催されました。

毎年、エイズにおける教育や予防、治療や支援の現場、感染者や患者の当事者など幅広い領域からの情報を得ることのできる貴重な機会として、全国から多

くの教育関係者、医療関係者、市民活動ボランティアなどが参加しています。

ともに生きる つながりの参加者になる

エイズ（後天性免疫不全症候群 Acquired Immune Deficiency Syndrome; AIDS）は、1981年に世界で初めての症例が報告され、わずか10年程度で感染者は世界中に100万人にまで広がりました。薬剤の研究開発が進み、先進国ではHIVに感染してもエイズの発症を抑えることができるようになり、感染者・患者を取り巻く環境も変化してきました。一方で、感染者が減少しない状況やHIVを抱えて生きるための環境整備など、新たな課題が出ています。

第28回目を迎えた今年のフォーラムでは、「ともに生きる つながりの参加者になる」というテーマを掲げています。

新型コロナ感染症の影響を受け、社会が大きく変化する中で、私たちの日常生活やコミュニケーションの方法、つながり方も変化しています。AIDS文化フォーラムは、長く「ともに生きる」をテーマにしてさまざまな人たちとの交流、ふれあいを通して気づきと学びを重ねてきました。今回あらためて新しいつながりを模索し、一人ひとりが「ともに生きる」つながりの参加者であることを伝えるフォーラムとします。

全国・海外とオンラインでつながる

新型コロナウイルス禍にあっても、人と人との一期一会の出会いを大切にハイブリッドで開催できないか開催の方法についての検討を重ねてきましたが、昨今の感染拡大状況を受けて、昨年に引き続きオンライン開催することになりました。どこにいてもつながれるというオンラインならではの利点を生かして海外とつながるプログラムも予定されています。参加希望者には、AIDS文化フォーラム in 横浜のホームページ・オンラインフォームにてオンライン登録の受付をしていただきます。オンライン(Zoom ウェビナー)での参加となります。プログラムによっては、YouTube を利用しての視聴も行います。

オープニングでは、感染症に振り回される日本を共に考える

8月6日(金)10時からのオープニングトークセッションでは、「情報による社会の分断～当事者・支援者・伝える人・受け取る人～」をテーマとして共に考える機会とします。新型コロナウイルスがまん延する今、HIVの当事者、HIV/AIDSの初期から取り組む支援者、伝える人だから語れることを検証します。

川田龍平さん（参議院議員、薬害エイズ原告）、下村健一さん（情報スタビライザー）、矢永由里子さん（臨床心理士）、岩室紳也さん（HIV/AIDS 啓発医師）がそれぞれの立場から語り考えていきます。

トークセッション 「宗教と AIDS」 つながる手段としての宗教

8月7日(土)13時から、「宗教と AIDS つながる手段としての宗教」をテーマに、太古の昔から宗教がつながる手段である一方で、宗教間の争いが絶えない事

実を踏まえ、多様なつながりの参加者となるためには、いま、宗教から何を学ばいいかを考えます。イグナシオ・マルティネスさん（カトリック教会司祭）、高村敏浩さん（日本福音ルーテル三鷹教会牧師）、織部佳積さん（日本HIV情報センター）、古川潤哉さん（僧侶）、岩室紳也さん（運営委員）がそれぞれの立場や経験から共に考えます。

講演会 水谷修さんに聞く、若者たちの今

『夜回り先生』の著者として知られる水谷修氏は、このフォーラムで毎年、若者たちをとりまく実態と若者たちの意識について講演を続けています。毎年、若者がもっと聞きたかったと好評の講座となっています。8月8日（日）13時から、「水谷修さんと考える、コロナ禍の依存症」をテーマにトークセッションが開催されます。新型コロナウイルス対策としてステイホームが叫ばれて2年、人と人とのつながりが希薄化し自殺が増え続ける現状を踏まえ、依存症の世界が直面している困難な現状について水谷修さんと五十畑勇さん（本牧ダルク）とともに考えます。

Webで22講座、活動紹介5団体が参加

フォーラムでは、オンラインで22の講座・発表が行われます。「ブームではおわらせない、性教育の本を書きました!」、「タイ・エイズ孤児ケアセンターハッピーホームのその後」など性教育や海外での活動に関するもの他、エイズを通して、差別や偏見、多様性について考え、「ともに生きる」ためにはどうしたらよいかを考える機会とします。

活動紹介団体は5団体あり、カトリック HIV/AIDS デスクや YMCA ACT などが参加し紹介を行います。

京都、陸前高田、佐賀、名古屋に広がった AIDS 文化フォーラム

1994年に横浜ではじまった市民による AIDS 文化フォーラムは、2011年より「AIDS 文化フォーラム in 京都」、2013年から「AIDS 文化フォーラム in 陸前高田」、2016年から「AIDS 文化フォーラム in 佐賀」、2017年から「AIDS 文化フォーラム in 名古屋」として毎年開催されています。横浜ではじまった AIDS 文化フォーラムが全国に広がっています。

【第28回 AIDS 文化フォーラム in 横浜 開催概要】

テーマ	ともに生きる つながりの参加者になる
期間	2021年8月6日（金）～8日（日）3日間 10時～18時 ＊最終日は16時まで
開催場所	オンライン（Zoom ウェビナー、YouTube 配信）

参加 自由／無料

主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
組織委員長：横浜YMCA 総主事 佐竹 博
社会福祉法人 横浜いのちの電話
カトリック横浜教区
ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部
公益財団法人 横浜YMCA

共催 神奈川県

後援 横浜市健康福祉局、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、
横浜商工会議所、神奈川県教育委員会、公益財団法人エイズ予防財団

協賛寄付 ワイズメンズクラブ国際協会東日本区
ヴィーブヘルスケア株式会社、ジェクス株式会社
ヤンセンファーマ株式会社

助成金 公益財団法人エイズ予防財団(令和3年度エイズ予防財団助成事業)

事務局 公益財団法人 横浜YMCA
〒231-8458 横浜市中区常盤町 1-7
Tel 045-662-3721 Fax 045-651-0169
E-mail abf@yokohamaymca.org
<https://abf-yokohama.org/>

組織委員会

神奈川県内でエイズに関わる課題に取り組む、民間団体の代表者で構成され、「AIDS文化フォーラム in 横浜」を主催し、その社会的な責任を負います。

【参考資料】(添付)

1. 2019年エイズ発生動向 概要(厚生労働省エイズ動向委員会)
2. 第28回AIDS文化フォーラム in 横浜 ちらし

この件のお問い合わせ、取材のご依頼は、
AIDS文化フォーラム in 横浜事務局(横浜YMCA内)

担当：たかむら やなぎはら高村・柳原

Tel 045-662-3721

横浜YMCA 広報

担当：池田

Tel 045-662-3721